

第1回交通安全カラオケ大会は、多数の村民が詰めかけ成功しました。

死亡事故ゼロへ再挑戦

—交通安全青年部がカラオケ大会—

金木地区交通安全協会市浦支部（白川孝治支部長）の青
年部（鎌田和廣部長）主催の交通安全カラオケ大会は、三
月十四日相内児童館で開かれ、約百七十人が詰めかけまし
た。
悲惨な交通死亡事故に歯止めをかけようと願う村民、安協など交通安全関係団体の役員
（関連記事十一面に）

昭和56年 2.3 合併号

防災行政無線局が四月開局

昨年九月から着手していた防災行政無線は、このほど役場の指令室・基地局、村内全地区に十九局（パンザーマスト）個別受信局十四局の設備工事がほぼ完了。三月末に電波監理局の検査をうけたあと四月から開局することになりました。

これにより、災害緊急時の連絡はもろろん、催しやお知らせなど情報伝達がぐんとスピードアップされることになりました。

農・漁業情報も定時番組で

より早く、より広く、より正確に

村では、自主防災の立場から、全村民による防災対策をすすめてきたが、全戸に正しい情報を流すにはどうしても村内一斉連絡のための施設が必要となり、国や県にも働きかけ、防災無線局の設置が

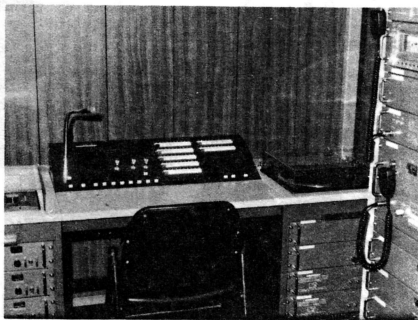
りくんでいたものです。工事は、五千八百七十四万二千元を投じ、役場内に受信信の中心となる指令室を設けたほか、村内十九か所に受信信用アンテナとスピーカーのついたパンザーマストを設置

パンザーマスト設置の内訳は、相内地区四か所、桂川地区二か所、太田地区四か所、隘元地区三か所、磯松地区二か所、十二地区四か所となっているが、さらに散在する十四世帯には個別局用のものがつけられます。

現在、工事は設備面がほとんど完了。三月末には電波監理局の開設認可が下り、あとは電波調整などを残すだけとなりました。残り細部の工事を急ぎ四月十日ごろまでには最終調整を終えて開局にごこつけたい考えです。

村では、各地区ごとにまだであつたこれまでの定時時報（チャイム）を毎日午前六時、十二時、午後五時、午

緊急連絡体制は万全



開局を待つばかりとなった指令室（基地局）

後八時に統一することにし、運用方法として午前と午後の一固定時番組を組み、農事情報や漁業情報も盛り込む予定です。この無線局の開局で従来の広報や回覧に頼っていた行政連絡も伝達スピードが一段とアップするほか、緊急連絡体制が確立されることになりました。

また、夜間の指令室業務は常備消防に委託、二十四時間体制となるほか、車載用五局と携帯用無線が六台配備され

緊急連絡はもろろん、事故や災害現場からも正しい情報が指令室に伝達される仕組みとなっている。

村では、この防災行政無線を防災上はもろろん、住民に対する行政サービス、社会教育活動にも利用し、幅広く役立てることにしています。



体育館ができるぞ

完成待ち望む地区住民

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 市浦村海洋センター建設工事起工式



関係者約130人が出席して工事の安全を祈願しました

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（略称B&G財団）市浦海洋センター（体育館）建設の起工式が、三月一日午前十一時から相内小学校体育館で行われました。式典には、地元側から白川治三郎村長はじめ村議会議員、村内各小、中学校長ら関係機関団体長、隣接町村長や県関係者等約百二十人が出席し、B&G財団側からは、笹川良一会長代理として、中北清専務理事が出席しました。神事では、関係者一同が工事の安全祈願を行ったあと、会場を基幹集落センターに移して祝宴。来賓からの祝詞、祝電披露に続き、白川治三郎村長が謝辞をのべ、村民待望の施設建設工事の着工を盛大に祝いました。B&G財団市浦海洋センターは、B&G財団が行う施設整備計画のうち、昭和五十五年（第六期）に着工する三

十カ所の一つとして、全国市町村から募った施設建設候補地から、海洋センター整備の最適地として選ばれました。これは単に、敷地や水面が建設条件に適合しているばかりでなく、賛同者がB&Gプランの趣旨に賛同し、村民の健康づくりを積極的に進めようとする意欲が評価されたものです。B&G財団市浦海洋センター（体育館）は、市浦中学校南側に総工費二億五千万円（B&G財団負担）で建設、延床面積一千二百二、三平方メートル、ホールコート二面、パドミントンコート四面、バスケットコート、ミーティングルーム、事務室、シャワー室等が完備され、昭和五十六年八月二十五日完成の予定です。B&G財団市浦海洋センターが完成すると、村民の健康増進や豊かな人づくりのため開放されることになっており、昭和五十六年、五十七年度で建設予定のコミュニティーセンターとともに、地域の社会教育、社会体育の拠点として、青少年の健全育成及び村民の健康体力づくりなど、スポーツ・レクリエーションに寄与する最重要施設として大きな期待が寄せられています。

B & Gプランとは

—B & Gセンターから—

青い海（ブルーシー-B）と緑の大地（グリーンランド-G）に、青少年を中心とする国民のみなさんの、体力向上と豊かな人間づくりのために、スポーツとレクリエーションの環境を提供しよう——という目的をもって、B & G財団は昭和48年に設立されました。

それ以来、全国各地に海洋センターを建設しつづけてきました。財団直営のセンターとして、沖縄海洋センターにつき東京にB & Gセンターが開所され、その規模も一段と拡大されました。

また、施設づくりと並行して、地域海洋センターやB & G海洋クラブで活躍する指導者（B & G

成士）の養成研修等の指導者づくり、B & Gクラブ員による組織づくり、海外、国内体験航海、各種海洋スポーツ教室など数多くの事業を実施しています。

このような海洋性スポーツを中心に健全なところからだすべく、この計画が、B & Gプランです。第二次大戦後の復興から繁栄へと、日本経済が発展した一方で、国民の健康と精神のバランスが失われつつあるのを回復向上させるために始められたものです。B & Gプランに必要な資金は、モーターボート競走の収益金から拠出されています。



B & G財団笹川良一会長の代理であじさつする中北専務理事

本部の解散時期は県と歩調

被害額4億4千万円に

市浦村冷害対策本部で総括



冷害を克服できる営業指導をしなければ……と活発な意見が出された。

市浦村冷害対策本部（村長白川治三郎本部長）では、昭和十五年七月以降の不順天候による災害状況をまとめ、二月二十六日、基幹集落センターで開かれた第六回冷害対策本部会議に提出、事業経過の反省と問題点を話しあい、冷害克服のため今後も努力してゆくことを確認しました。

営業指導の強化

昭和十五年七月以降の不順天候により、農作物、特に水稻に不稔穂、出すくみ現象等が発生したことから「不順天候対策本部」を設置した。九月一日には凶作が予想されたことから、同本部を「冷害対策本部」に切り替え、五回にわたる冷害対策会議を開催し、種々救済対策事業をすすめてきたものである。会議では、白川治三郎村長

があいさつしたあと、和嶋定義経済課長が「種もみ、限度敷賦算入金、普無作となった水田の稲刈り等の残務整理が少いあるだけで、冷害対策本部で予定した仕事はほとんど終わっている。過去五回にわたって対策会議を開いて救済対策をすすめてきたが、事務局としてはいろいろな点で力不足を生じ必ずしも満足していません。対しては申し訳なく思っている。今後は冷害の経験を生かした営業指導を強化し、農家と行政側が一体となって冷害克服のため努力して行かなければならない」とのべました。

このあと、鳴海農政係長から冷害対策本部事務局でまとめた報告書についての概要説明があり、話しあいに入りま

① 話しあいの中で、各委員からは、農家に対し、農業共済制度の説明会を開催するなど、各農家が理解できるように共済金の配分方法を検討してほしい。

② 今後も冷害が発生することを予想し、冷害を克服できるような最新技術の指導をしてほしい。

③ 営業指導を強化するとともに、農業改良普及所を中心として、村内各関係機関、団体を含めた連絡協議会の設置を検討すべきだ。等の要望意見が出されました。

村では、これら要望意見をうけて、冷害を克服するための技術指導講習会や農業共済制度を理解してもらうための座談会、説明会を地域ごとに開催し農家の声を反映させながら、営業指導を強化してゆくことにしています。

また、冷害対策本部については、天災資金、自作農維持資金などの問題は若干残っているだけで、今後本部としての新しい仕事もないことから解散することになり、解散の時期については、青森県冷害対策本部の解散時期にあわせ



農業共済金制度の説明会を開いて理解を深めよう……と話しあい。

昭和55年度政府先渡限度数量納入状況(確定)

区分	1等	2等	3等	規格外	計	納入率
10月22日	619	5389	3889	0	9820	3.6
11月11日	63	210	205	0	478	1.8
12月9日	0	25	121	0	146	0.5
12月23日	0	202	22	79	303	1.1
1月23日	0	8	35	0	43	0.2
計	124	978	771	79	1,952	7.2
平均	6.4	50.1	39.5	4.0	100.0	27.03%

限度数量納入状況

昭和十五年産政府先渡限度敷賦納入状況(確定)では、一千九百五十二俵にのりまわり、そのうちの七十九俵が規格外となっている。

経過を報告する
と嶋経済
課長



総まとめ
昭和五十五年七月以降設置した不
順天候・冷害対策
本部で対応してき
た救済対策事業の
経過は、次のとお
りです。

災害資金貸付状況(確定)

(A)天災資金(55年12月22日貸付実行)
償還期間7年・年利率3%
相内 74,238千円 197名
桂川 8,700千円 13名
太田 40,413千円 38名
磯松 11,170千円 27名
脇元 1,490千円 2名
十三 450千円 2名
計 136,461千円 179名
(当初配分額 142,560千円)
(B)自作農維持資金(55年12月19日貸付
実行)償還期間20年以内(うち据置
3年以内)年利率4.6%
市浦全域54,570千円 80名

被害農家貸付金預託事業

預託前 市浦村農業協同組合
預託期間 昭和55年11月20日～
昭和56年11月30日
預託金額 3千万円
貸付金額 1件30万円以内
年利率5%
貸付実行数 100件

冷害対策稲わら総合利用事業(確定)

飼料用稲わら確保対策事業
飼料 60ha 計 120ha
敷料 60ha
事務費 3,600千円
県費 2,400千円
村 1,200千円
青立ち稲等有効利用促進事業
青立ち稲 120ha 事業費 100千円
県 100千円
冷害防止地力増強対策事業
堆肥 19.80ha 事業費 594千円
県 396千円
村 198千円

種子確保状況(確定)

種子申込数量 14,198kg
シモキタ 6,126kg
ハマアサヒ 6,137kg
アキヒカリ 1,935kg
農家数231戸 その面積299.78ha
種子確保対策費
76,275円(種子販売差額)

402,093円(同上)
66,000円(種子購入袋補助)
21,000円(種子選定作業人夫賃)
650,820円(種子補助「村単独」)
1,216,188円(計)
事業費 5,722千円(5,157)
県 1,747千円(1,747)
村 1,216千円(651)
農家 2,759千円(2,759)

飯米確保状況

被害農家の飯米申込数量(55年12月～
56年10月)392.70精米kg(654.5俵)
飯米申込農家数 110世帯
飯米申込世帯員数 514人

損害状況(確定)

(A)共済引受面積 37,356a
(B)同引受収量 1,186,340kg
(C)共済金額 329,802,520円
(D)農家数 315戸
被害結果
①損害評価申請書 1,044,428kg
②金額 290,350,984円
③認定量 871,277kg
(認定率 83.42%)
④共済金の支払状況
(a)対象農家数 315戸(全戸)
(b)対象耕地面積 37,356a(全面積)
(c)保険金受領年月日 55年12月18日
(d)共済金支払年月日 55年12月22日(口座振込)
(e)支払共済金額 242,200,272円
一戸当たり平均支払額 768,889円
10アール当たり平均支払額 64,835円
⑤共済被害率等
(a)共済引受収量に対する減収率 73.44%
(b)共済基準収量に対する作況指数 18.59%
(c)作統発表の10アール当たり収穫量 58kg
(d)作統発表から計算する作況指数 13.42%

損害状況(概数)

①55年度共済引受面積 374ヘクタール
②55年度生産予定数量
10a 当たり平均収穫量480kg×374ha
=1,795,200kg(29,920俵)
③55年度生産予定額
1俵17,000円×29,920俵
=508,640,000円
④55年度生産費 10a 当たり30,000円
×374ha=112,200,000円
⑤年所得額 396,440,000円
⑥55年度生産量
(A)限度数量
1 等 17,336円×124俵
=2,149,664円
2 等 17,016円×978
=16,641,648円
3 等 16,016円×771
=12,348,336円
規格外 11,036円×79
=871,844円
計 1,952,320,011,492円
(B)飯米数量 1,353a×120kg
=162,360kg(2,706俵)
必要数量 2,706俵=飯米購入量
655俵=2,041俵
平均 17,000円×2,041俵
=34,697,000円
(C)種子数量
10a 当たり 5kg×374ha
=18,700kg(312俵)
必要数量 312俵=不足申込数
量237俵(14,198kg)=75俵
平均 20,000円×75俵
=1,500,000円
第1次損害額(⑤)-(A)+(B)+(C)
396,440 68,208
=328,232千円
種子補助金 2,963千円
共済金 242,200千円
最終損害額 83,069千円(うち転作
者分17,654千円)
10a 当たり損害額 22,211円
農家一戸当たり損害額 263,711円
転作農家被害額 17,654,238円

救農土木の状況(確定)

(A)市浦村直営事業(水路
農道等)
作業期間 五十五年十
一月二十五日～五十
五年十二月十五日
従事延人員 九九七五人
資金支払総額 三、八〇三千円
(B)県林務課発生事業
作業期間 五十五年十
一月十日～五十五年
十二月十日
従事延人員 一、三四四五人
資金支払総額 五六五八千円
(C)市浦営林署直営事業
作業期間 五十五年十
月二十八日～五十五
年十一月二十七日
従事延人員 七二二五人
資金支払総額 三三、〇二二
千円
合計 三、八〇三
千円
従事延人員 三、〇六四五人
資金総額 一、二七六三
千円

唄と踊りの大競演

十三・村民慰安芸能大会

十三地区の村民慰安芸能大会は、十月十五日午後一時から十三小学校で開かれ、時のたつのも忘れて楽しいひとときをすごしていました。

これまでの芸能大会は、婦人会やPTA等が独自に主催して開催してきましたが、参加人員、芸能種目、大会運営等に限りがあり、もろあがりもいま一步というところで、今大会では、十三の砂山保存会・高松隆三会長、十三

婦人会・小山あぐり会長が主催、若者中心の十三東日流会（亀田信治会長）が全面的にバックアップしている。

（住民相互のふれあいを深め、コミュニティ社会の形成をはかることを目標とし、そのテーマも「うすれゆく人情をとりもどし、明るくあすを拓こう」としている。

芸能プログラムは一部から三部に分けられ、踊りを中心に台所用品を使用した演奏、

ものまね、ダンス、寸劇等もどび出し、第二部では心の叫びを歌に託して……唄の大競演となりました。

出演者は、婦人中心でしたが、日頃の練習の成果を存分に発揮、いずれも業人芸とは思えないほどの見事な芸能に会場からは盛んな拍手をあげていました。

また、益金三万余円は村社会福祉協議会へ寄付しました。



皿、お椀、タル等台所用品での演奏もなれたもの



子どもたちも飛び出したヒゲダンス…

磯松・こちらは公民館まつり



地域ぐるみの参加で、盛り上がった磯松公民館まつり

住民相互の親睦深める

磯松公民館（藤田礼造館長）では二月二十二日午後五時から、同公民館に地区住民約百五十名を集めて「公民館まつり」を開催しました。

同公民館では、婦人を対象とした家庭学級、実習、レクリエーション活動を積極的に進めています。同地区は村内でも有数の「芸能人」の「公民館まつり」は、地区

住民の親睦を深めるために婦人会が中心となって企画したもので、この日も地域ぐるみの総参加でプログラムも四十をこえた。

津軽民謡、手踊り、カラオケ、喜劇などメニューももりだくさん、朝早くから会場に陣取った家族や隣接村からかけつけた人たちの声援をうけ、地域ぐるみの「公民館まつり」を楽しんでいました。

村元 セツ



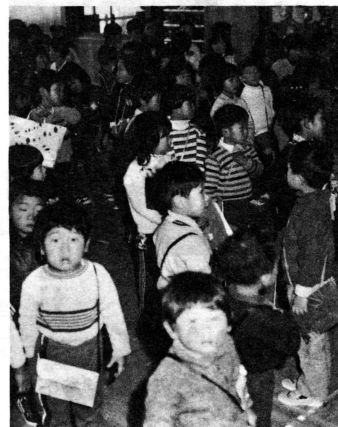
（磯松婦人会会長）
初めて開催した磯松地区の公民館まつりは、地区住民総ぐるみの力で成功させることができました。
磯松婦人会々々員三十七人、数こそ少ないが「団結と行動力は自他共に認めるところ」。最近、よく耳にする言葉に「コミュニティ」というのがある。
会員一人一人が気持ちを寄せあい、歌い、踊り、語りあいながら親睦を深め、その中から問題解決をみい出し、心豊かな人間性、明るい地域社会が生まれるのだと思えます。

「今年には練習不足だった、来年はもっと楽しく立派なものにしよう」。ふっけ本番でもあれだけやれたんだがちなア。
公民館まつりの成功は、いま、地区住民の語りぐさとなっており、次回を楽しみにしている。

「保育所では「まごっこ」や「ゆうびんやさんごっこ」や「おみせやごっこ」などの行事を計画的にとり入れ、子どもたちの自然の遊びの中や社会の習慣や情操性を身につけさせていますが、村内の保育所ではこのほど一斉に「おみせやごっこ」を開店し、子どもたちは割りあてられたおごっこはいでそれぞれお気に入りの買物をして楽しく、にぎやかな一日をすごしました。



おみせやごっこで品定めをする監元保育所の子どもたち



開店と同時にごったがえした相内保育所の店開き

盛況

おみせやごっこ

保育所で開店

「おみせやごっこ」は、子どもたちが楽しみにしている年間行事の一つですが、最近の子どもたちはお金の暮さ、ありがたさがわかっていないような気がする。また、お金はいくらでもあるものだ。おねだりすればくれるものだ。という気持ちの子どもが増えているようにも思われる。これまでの「おみせやごっこ」は、「売る」「買う」だけの行事であったが、子どもたち一人一人に商品をつくらせ、みんなで力をあわせてつくりあげる喜びと、協調性を養うことも目的としている。

「おみせやごっこ」は、子どもたちが楽しみにしている年間行事の一つですが、最近の子どもたちはお金の暮さ、ありがたさがわかっていないような気がする。また、お金はいくらでもあるものだ。おねだりすればくれるものだ。という気持ちの子どもが増えているようにも思われる。これまでの「おみせやごっこ」は、「売る」「買う」だけの行事であったが、子どもたち一人一人に商品をつくらせ、みんなで力をあわせてつくりあげる喜びと、協調性を養うことも目的としている。

お父さんやお母さんがどれほど苦労して働いているか、その暮さも知ってもらうこともねらいとしており、これまでの「おみせやごっこ」を一步前進させています。各保育所で、開店した商店をのぞいてみると、売る側になった子どもたちがそれぞれ「店主」になりきって「サアサアいらっしやい」。おもちゃはいかがですか、新しいイカ、さかなはいかが、おいしいアメ、焼きたてのほおどっつくはいかがですか。サアサアいらっしやい。みかんはいかが。あたりはすれのないくじびきしませんか。」などと呼びこみする一方、お気に入り商品の売りおみをする「店主」も現われるのみ、子どもらしい風景もみられました。

買う側の子どもたちの中には次々商品を買いきる。「ドラ息子」しつかり品定めをして値引きを要求するかしこい「主婦」。未満児を連れてお兄ちゃん。お兄ちゃんや妹のみやげにしたいと「買いダメ」をねばる「中年」など、どこの店も呼びこみと買い物客でにぎわい、上野の「アメ横」負けの盛況ぶりでした。



ココナツとソーセージください。はい、あわせて100円です…一十三保育所—